

1 見どころ（展示構成）

(1) 天然氷の歴史

天然氷の初出資料は奈良時代の『日本書紀』にまで遡ります。その後、平安時代になると、『枕草子』や『源氏物語』に貴族が夏場に氷を口にしたことが記されています。

(2) 現在の製氷作業（長瀨町）

現在、県内で1か所だけとなった長瀨の製氷作業の様子を、ビデオ映像（準備から切り出しまで）や道具で紹介します。

真冬の切り出し作業はよく知られていますが、そこに至るまでの準備と水の管理の大変さを紹介します。



2021年1月に行われた氷の切り出し
（長瀨町）

(3) 過去の製氷場（県内）



昭和初期、横瀬川での製氷風景
（笠間洋右氏所蔵）

かつては秩父地方をはじめ県内各所で製氷が行われていました。当時の状況を分布図とともに写真や図面で紹介します。県央の伊奈町にも氷池があり、これについては文書資料で紹介します。昭和初期に撮影された横瀬川（横瀬町）での製氷作業の写真は非常に貴重なものです。

(4) 県外の製氷場－軽井沢－

軽井沢の製氷は、信越本線の開業で一躍盛んになりました。製氷の様子を伝える古写真や道具を展示します。軽井沢を好んだ作家の堀辰雄が、氷室について書いた随筆の自筆原稿や、氷室の前での記念写真も紹介します。

氷室の前の堀辰雄
（堀辰雄文学記念館提供）



(5) 氷の利用

明治時代以降、氷はものを冷やすために多く使われてきました。養蚕業では蚕種（蚕の卵）の保存に多用され、料亭や家庭には氷を使った冷蔵庫もありました。そして今や、天然氷といえばかり氷。新旧のかき氷機や各種の氷皿を展示します。

(6) 献氷（けんぴょう）の神事

献氷とは夏まで保存しておいた氷を神や朝廷に献上することです。奈良市と天理市の氷室神社では今でも献氷祭を挙行し、金沢市の湯涌温泉では、江戸時代に加賀藩が徳川将軍に氷を献上した風習を復活させています。これらを写真で紹介します。

【問い合わせ】 県立川の博物館

電 話：048-581-7333

F A X：048-581-7332

E-mail：web-master@river-museum.jp

ホームページ：<http://www.river-museum.jp/>

※ 諸事情により開館時間、展示構成やイベントの内容などが予告なく変更、または中止になることがあります。